



みんなで子育て No.10

11月(中まで)の家庭教育学級の実践

岐阜市立芥見東小学校 なかよしフェスティバル 車いすの体験 体験活動型

開催日：11月16日(土)
講師：成人教育委員

●活動内容「なかよしフェスティバル」

成人教育委員の皆さんが、車いすの体験を児童に経験させたいという事で、平成26年から続いています。今年で6回目です。

この日は、校内の「なかよしフェスティバル」で、全校縦割りの班が各会場で遊びのお店を工夫しています。ビックリ屋敷、キャラクター探し、つり等、ゲームや遊びが一杯です。体育館でも障害物リレーやピンポン玉リレーがあります。ワークスペースではふるさと先生が紙飛行機工場を行っています。その中の一つとして



車いす体験を行っています。

●車いす体験「のってみよう おしてみよう」準備よしサポートよし

車いすが4台、2台が学校、残り2台は公民館からお借りしています。引継ぎが良くされていて、説明の用紙や、車いすのコース、コースでの巡回路のテープ、段差をなくす段ボール敷きや難所作り等準備が丁寧に行われています。

1年生から6年生までの縦割り班で1班7~9人ほどで回ってきます。35分の間に4グループを実施し休憩をはさんで4回行われます。受付をして、ペアを作り、説明を聞きます。分かれて、車椅子に乗ったり押したりします。ストッパーや足を乗せる場所の確認を大事にしています。見通しの効かない所では、いったん止まり、「右よし左よし」、坂道はバックでゆっくり、「下がりますよ」といった声をかけるように指導されます。ペアは身体の大きさに合わせ、押したり、引いたりする時の負担がかからないようにされています。

子ども達は車いすを楽しげに操作しますが、方向転換や坂を下りていく、押していくときにずいぶん苦労します。終わると乗った子は「楽しかった」「面白い」といった反応で、安心して乗ることができた事が分かります。また、押す子は「意外と軽い」「楽しかった」という反応や「ブレーキがないので怖い」といった声がありました。押していくときに、坂道があるので心配になったようですね。

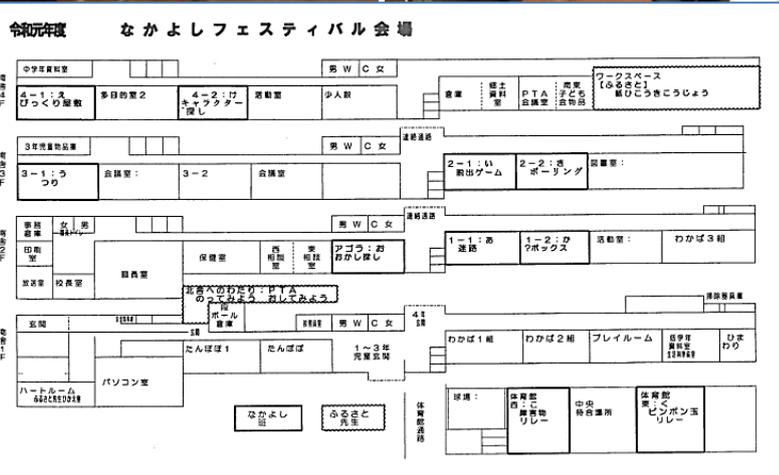


●リーダーとしての心遣いが良い

縦割りのリーダーの6年生の子が、ペアを作るときに「できる？」と確認したり、回っているときに人数を確認して、いないと直前のお店にもどり確認したりします。他の班から「車いすではペアになるよ」と聞いて、「自分の班は9人なので大丈夫かな？」と考えます。後半疲れていても、班の子に「どこ行きたい？」と声をかけていて、よく気を遣っています。班の子とのコミュニケーションがうまく取れるように日ごろから関係ができていると感じました。

●地域とともにある学校

子ども達の遊びのお店の日に、車いす体験を入れたり、地域の先生の活動を入れたりすることで、学校、地域全体でこの日を大事な日としていることが分かります。ふるさと先生は地域の高齢化に伴って、活動場所を学校に確保するという点で大変参考になる活動だと学びました。



講師 医師 廣瀬 玲子 氏



●いのちをかけて生み・・・

講師の廣瀬先生は19年間、分娩、緊急手術に従事されて、その途中から女性外来という相談的な医療にも関わられました。生きていることの喜び、心と体が良い状況、健康には何が重要かといったお話が順に始まりました。

生徒には事前に聞きたいことのアンケートが実施されていました。「赤ちゃんふれあい体験」を行っていることもあり「赤ちゃん」のお話に関心が高いようです。

講師から生まれたばかりの赤ちゃんの生命力に感動するお話がありました。しかし、

出産のリスクはとても大きく、出血が20、体重が6kg減る場合もあるお話から「命をかけて命を生み、命をかけて命を守る」女性のすごさを学びました。また、女性には生理もあり、鉄分は男性の2倍補給することや、女性には体への負担が大きく、余裕が必要であるとお話がありました。

10代は身体を作ります。だから食生活が大事です。その他性病・性の扱いについてもお話がありました。中学3年生にとって大事な話であり、参加された保護者の方も、家に帰って話ができると話されていました。豊富な知識と自分を大切にしてほしいという思いが伝わる内容でした。



●<感想>

- ・(父)男女別々に聞いてもイカなと思いました。でも、赤ちゃんのことや女性の事を知るにはいい機会だったと思います。
- ・(母)子どもは男の子で、「結婚なんかしない。女性に興味ない」なんて言ってます。でも、赤ちゃんの事、出産のリスク、自分の存在の大事さから母はすごいという事が話題にできると思いました。



◆コメント

校内ですれ違う時の生徒のあいさつや、体育館への案内をしてくれた男子生徒がとてもすがすがしく、講話を聴く前から生活の姿の良さを感じました。

講師はお話のなかで、10代の中学生が、心も体も健康であるために、身体づくりが一番大事な時期であることや自分を大切にする方法を伝えようと言われていました。保護者が参加しているので、帰ってから親子の話題として、赤ちゃんの頃のお話ができる良さがあります。

●月2回(第1,3金曜日)の木育ひろば

2時間ほどの間に、10組20人の親子が訪れました。丸い積み木、Jブロック、メタモック等の岐阜県産の木を使った積み木が多数あり、子ども自ら遊び始めます。積み上げて倒し、また積み上げて倒す。他の形状の積み木でまた楽しむ。平面をうまく合わせて座っている自分より高く積み上げる子もいます。また、館長による「きまぐれ工房」では栗の木を使ってバターナイフの作成が行われています。前回作ったトロの木(楠の木)のペンダントを首に下げて参加されている親子もいました。磨くとつるつるになり、光る事が楽しいようで、子どもも作りながら自慢げに見せに来たりします。

●北方みなみ子ども館

乳幼児対象の部屋、小中学生が利用できる部屋、絵本のある図書室、遊具のある庭、広場などがあり、基本的には未就園の親子から小中高生まで集う場所となっています。ここはゆったりとできる広さや出入り自由な場所なので、親と館の人や親同士交流があります。他の部屋には乳幼児の遊具や授乳できる部屋があり、利用しやすく感じました。



トロの木のペンダント

講師 各務原警察署生活安全課
少年補導職員：大河 知也 氏



●SNS、携帯のトラブルを考える！

警察の方から直接お話を聞きました。「家族は知らない。見えない。子どもの関係は見えづらい。」保護者に訴えるような言葉でした。フィルタリングの設定、ルールを考える機会が大切であること、与えてからでは手遅れであることなど、保護者にとって大切なことを話されました。



また、LINE を巡るトラブルでは、短い文字だけのやりとりのため正しく意思の疎通ができないことによる仲間はずれの事例が多いことを教えていただきました。その他にも、なりすましを信用し自撮りの写真を送ってしまった事例、プロフィールから相手を信用し写真や金銭を送ってしまった事例、性被害に合い深く傷ついてしまった事例など、多くの事例を紹介していただき、その怖さを感じることができました。

質問Q：子どもに「会って話を聞くより、プロフィールの方がよく分かる。ネットの世界の方が安全。」と言われたらどうしたらいいですか？ 「SNS で知り合った人に会いたい」と子どもが言ったらどうしたらいいでしょう？

講師A：頭ごなしに否定しても子どもは聞かない。日ごろから危険性を教える親の姿勢や、「何で会いたいの？」「プロフィールだと安全と言えるの？」と問い返すなど、うやむやにしない日ごろの関わり方が大事だと思います。

◆コメント

SNS の怖さや、被害の多さがとてもよくわかりました。保護者からは、質問がいくつもあり、「残忍なゲームをしていると実際にそうなるのですか？」といった切実な質問もありました。講師の方はじっくりと考えてから話されたり、「警察もストレスがたまるので発散が必要」などと話されたりして、楽しく聞くことができました。

講演後、サロンを行い、今回の話題について、自分の家庭のことを具体的に話し合う機会が設けられていました。「親子でこの話を聞きたい」という前向きな意見も出て、素晴らしい会が進んでいると感じました。



●全校児童 177 人がおにぎり作りにチャレンジ



縦割りの班で、お昼のおにぎり弁当を芝生の校庭で食べます。風が吹いても砂埃が起きません。PTA 母親委員会から、子どもが自分でおにぎりを作ろうと文書で呼びかけています。具材は何でも良いということでした。

開会式の校長先生のお話の中で「自分でおにぎりを作った人は？」と聞かれ、ほぼ100%の子が挙手し、「みんなとは違う具材や工夫をしたことはありますか？」といった質問に数名が挙手し、「ブリを入れました」「のりをまくのではなく卵をまきました」と紹介をしました。

1年生の子が自分で卵焼きを作って、おにぎりに入れていました。好きなチャーハンのおにぎり、具材にレンコンのきんぴらと唐揚げ、ハンバーグ、焼き鳥、たらこ、サンドイッチのようなおにぎり、アンパンマンの顔等多種多彩です。家族の支援もありましたが、全員が自分でおにぎりを持ってきていることも楽しいですね。

●この日に向けて

6月に給食試食会、食育講演、7月に親子和菓子作り体験、夏休み中に各家庭で、旬の野菜を使った料理「Let's cooking」が実施されています。数年前から継続して企画されており、今回も楽しみに取り組んでいるようです。

児童は外で太陽の日に当たりながら、自分が作ったおにぎりを見せます。自分のおにぎりに自信を持っている雰囲気が良いですね。なかフェスのスローガンは、協力・励まし合う・楽しむということが確認され、6年生のきびきびした動きやはっきりした指示があり、日頃の関係の良さが見えました。



開催日：11月13日(水)
 講師：村上 桃香 氏
 (子どものこころのコーチング協会インストラクター)



●気分よくスタート

最初にアイスブレイクとしてハイタッチ3人、一瞬で和みます。講師によるコーチングを学んだ経緯を聞き、その後、バースデーチェーンによりコミュニケーションを取りながら楽しく進行します。

ライフチャートで自分の状態を知る方法を学び、ペアで交流します。次に言われてうれしかったことを思い起こして3~4人でシェア、ますます盛り上がります。最後は言葉のプレゼントゲームで、うれしい・うれしくない気持ちを表現することを学びました。



●「123コーチング」：目標達成のためのコミュニケーションツール

1 今は何色？ 2 将来何色になりたい？ 3 そのために何をしていくのか
 自分を点数ではなく「今なりたい色」で表現し、具体的に何をするのかを考えます。少なくとも7つ考えましょうと話され、どんな場合でも、色々な方法を考えることの重要性を話されました。

なりたい色を目標として、取り組み達成できれば、さらに夢を目的として、目標をクリアしながら自分の夢をつかむことについて、講師ご自身の話を語られました。

「どうせできない」と思うより「どうしたらできる」という事を考えたり、自分の夢や目標を人に話したりすることで、チャンスが生まれることのお話も意欲を高めます。



●<感想>

- ・「ももかさん」は、私たちと同じ目線ですとお話してくださったのがとても心地よかったです。ただ話を聞くだけではなく、自分が主役となって、話したり話を聞いたりする内容が良かったです。全然眠くなりませんでした。色々な選択枠をつくることの大切さが分かりました。
- ・体を動かしたり、初対面の人と話したりして、たくさん褒めてもらって、1時間半あつという間の時間でした。今日お聞きしたことを子どもの目標達成、自分の目標達成のために生かしていきたいと思います。

◆コメント

参加された保護者の意欲が高いこともあり、講師は指示した活動について、その意味や意義を説明されるので、納得します。質問に対しても、親子のコミュニケーションで大事にしたい点を示されます。同じ子育て中の母親であり、自分でなりたい自分を描いて努力されているので、説得力があります。

多くの参加者が楽しく、学びとなったと感想に書かれてあり、素晴らしい会になりました。

令和元年11月吉日

最長子PTA会員様

芥見東小学校
 振り返り

第3回家庭教育学級「親子で褒め合おう」のご報告

日頃より家庭教育学級の運営にご理解とご協力をいただきありがとうございます。
 秋休みに行った「親子で褒め合おう」では、各家庭で取り組みをしていただきましたので、感想を一部紹介させていただきます。

▶子の感想

- ・褒められた時はうれしくて、心が温かくなりました。
- ・お母さんに褒めてもらって、いつも大切にしてくれている事を知りました。
- ・褒めたり、褒められたりする気持ちよくなりました。
- ・心がスッキリしました。
- ・もっとありがたい気持ちを、声に出せるといいと思いました。

▶親の感想

- ・「ありがとう」「おいしいね」と言葉に出して言ってくれると嬉しい。
- ・朝、昼、夕、寝る前に褒めるようにしました。
- ・意識をしないと、なかなか褒めることが出来ず難しかった。
- ・これからも魔法のほめ言葉で笑顔を増やしたいです。
- ・子供の良いところを意識して見ることができ、たくさん良いところを見つけることが出来て良かった。

「毎日ほめることをしています」「これからも続けていきたい」等の感想もいただき、家族の絆を深める良い機会になり、委員一同うれしく思います。
 お忙しい中、ご協力ありがとうございました。

第3回家庭教育学級 実践カード

親子で褒め合おう

良い所を見つけ褒めることができた日は、☆に色を塗りましょう。

	10/12(土)	10/13(日)	10/14(月)	10/15(火)	10/16(水)
保護者	☆	☆	☆	☆	☆
子供	☆	☆	☆	☆	☆

親の感想 (お母さんへのお手紙)

子供の感想

10月17日(木)担任の先生に提出して下さい。(担任の先生=教職先生一人教育委員 古田)

●親 ⇄ 子 褒め合う

子どもから保護者を褒めるといった視点での活動が素晴らしいですね。保護者が子どもを褒めるのは当たり前と言いながら、子どもに褒められるのはうれしいですね。

子どもの感想には「褒められたときはうれしくて、心が温かくなりました。」「お母さんに褒めてもらって、いつも大切にしてくれている事を知りました」とあります。

保護者の感想に「子どもの良いところを意識して見ることができ、たくさん良いところを見つけることができ良かった」と書かれており、あたたかい言葉によって親子の関係がよりよくなる感じがしますね。

振り返りの報告があることで、より良い姿を示すことができている。